したものである。

各章ごとに独立した論文ではあるが、前著『古代医療官人制の研究——典薬寮の構造』（法政大学出版局、五八年刊）に続くものであり、両著を合わせて、日本古代中世医療通史として見ることもできる。

紙数が少いので、個々に立ち入って論評することができないので、本書の特徴——それは、そのまま本書の長所であるが——を列挙すると、つぎのようになろう。

第一は、著者も前著で指摘されているように、日本医療史の研究が近世以降に偏重して、古代中世を対象とするものが少ない現在、ことさら、古代中世を照射して、その解明に成功したということである。その点、今後、日本の古代中世の医療史を志すものは、本書を通らずに進むことはできないであろう。

第二は、各章ごとに取り上げられたテーマが、いずれも古代中世医療史上のもっとも重要な問題点であり、これに古記録・文学作品などのみならず、従来あまり用いられなかった古文書類までも操作して、多角的に迫ったことである。

第三には、史料を博捜して、微細な点にいたるまで克明に調べ上げてあることである。博引旁証の精緻なことは、各節ごとに付された補注にまで及んでいる。

そして、本書の価値をもっとも高からしめているものは、副題にも掲げられているように、つねに民衆の立場に視点が置かれていることである。これは、現存する史料の多くが為政者側のものであるとき、本書の価値をさらに高めることになる。

一言でいえば、先学の業績をはるかに抜きん出た名著であるということができよう。強いていえば、用語がやや難解なものがあり、散見される体言止めがやや目障りになるくらいであるが、いずれも充実した内容に抵触するほどのものではない。

なお、末尾に主要事項索引と人名索引があるのも有難い配慮である。

（法政大学出版局　一九八五年二月刊。A5判　四〇七頁　五八〇〇円）

（日本医科大学助教授　奥富敬之）

正誤表

第二十九巻二号

桑原千代子「横浜山手病院」

ページ	行	誤	正
二二四	上段・三	米・人	英人